

都市交流

鮫川村では、「まめで達者な村づくり」の一環として、大学との交流や体験交流型観光の推進など、都市との交流事業を積極的に行っています。

この交流事業は、村内の農林業・自然・生活文化・伝統工芸などといった豊かな地域資源(宝)に磨きをかけ、交流人口(村外から訪れる人たち)の増加と定住人口の確保など、地域で暮らし続けられる基盤をつくるために行っているものです。

村を訪れる人が増え、地域の魅力を活かした交流を通して地域が元気になってきています。

今月は、先月に村内各地で行われた交流事業などを紹介します。

山王の里で 田んぼのオーナー制度

村農村体験交流施設「山王の里」指定管理者のさめがわライフサポート(蛭田晃代表)は今年度から「田んぼのオーナー制度」を開始しました。オーナーとなったのは、東京都目黒区の住民二十人で、自立の道を歩む鮫川村のファンの方々です。

七月三日、四日の二日間、村を訪れたオーナーたちは、五月に田植えを行った田んぼ(渡瀬字上地内)の草取りを体験しました。作業は、「田打ち車」を使い、昔ながらの作業で、稲と稲の間の草を取り除きました。夜には、山王の里で夕食交流会が開かれ、地区住民と楽しいひとときを過ごしました。次の活動は、十月の稲刈りを予定しています。

さめがわ・ふるさと体験学校

都会から農山漁村への移住を支援する活動を行うふるさと回帰支援センターと村が主催する「さめがわ・ふるさと体験学校」は七月四日、五日に行われました。

今回の体験活動は、ふるさと暮らしに興味を持つ一般の方など三人が参加しました。初日は、江竜田地区の山林でチェーンソーを使った間伐作業に汗を流しました。作業終了後には、江竜田の滝を散策。村農村体験交流施設「山王の里」で夕食交流会が開かれ、渡瀬地区の住民と交流を深めました。

二日目は、村内に移住をした方の話を聞き、田舎暮らしの魅力を語り合いました。

大妻女子大学・民泊体験

村との交流を行っている大妻女子大学(東京都千代田区)西成ゼミは七月四日、五日の二日間、落合地区で民泊体験を行い

東京農業大学カレッジ講座

里山の景観を保全・維持し、地域の魅力を高めることを目的とした東京農業大学カレッジ講座「里山景観保全活動」は、七月に二回、村内各地で活動が行われました。

七月十一日、十二日の二日間は、小野学園女子中学校(東京都品川区)の中学生など四十一人が参加しました。



写真①大妻女子大学西成ゼミ(夕食交流会の様子)／②田んぼのオーナー(田の草取りを体験する参加者)／③さめがわ・ふるさと体験学校(間伐作業の様子)／④東京農大カレッジ講座(朝日山ハイキングの様子)

初日は、落合地区で田の草取りを体験。土の感触や田んぼの中に生息する生き物などを観察しながらの体験となりました。夜にはホテルを観察し里山の環境を実感しました。二日目には、齋須寛一さん(新宿)の案内で朝日山ハイキングを楽しみました。

また、七月十八日から二十日までの三日間には、東京農業大学の学生約三十五人が参加しました。一日目は、落合地区で田の草

取りを体験しました。また、夜にはホテルを観察し、里山の自然環境と生き物の関係を学びました。

二日目は、館山公園内の散策ルートの除草作業を行いました。その後、強滝の支障木伐採作業や鈴木寛重さん(馬場)のこんにゃく畑の除草作業に汗を流しました。

三日目は、朝日山ハイキングや鹿角平観光牧場を散策し、里山の自然を満喫しました。